

## 事業再評価調書（簡略）

[事業種別] 事業名【再評価理由】		[街路事業] 天王寺大和川線		【事業再評価後5年経過3回目】
担 当		建設局道路部街路課 (電話番号：06-6615-6744)		
1 事業目的		<ul style="list-style-type: none"> <li>・本路線は、阿倍野区、東住吉区、住吉区と3行政区にまたがり計画されていた阪神高速道路大阪泉北線の廃止に伴う用地を活用し大阪南部の主要ターミナルである天王寺から大和川を結ぶJR阪和線の横を縦断する延長約5.5km、標準幅員29mの都市計画道路である。</li> <li>・本路線を整備することにより、JR阪和線各駅のアクセス機能が強化されるとともに、従来の阪和線により分断されていた地域ネットワークの強化のほか、広幅員の街路であることから、延焼遮断帯機能などの防災空間機能を向上させることができることや、さらに、本路線の沿道には、親水空間に特色のある桃ヶ池公園、長池公園および競技場等の集客施設のある長居公園があり、それら沿道の公園とネットワーク化を図り、地域のアメニティ機能の向上を図るなど、様々な機能が融合した街路として整備することとしている。</li> </ul>		
2 事業内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>・街路整備（新設） 延長L=5,520m 標準幅員W=29m（両側2車線）</li> </ul> 国道25号 ～木津川平野線：30m程度 木津川平野線～敷津長吉線：15m程度 敷津長吉線～大和川北岸線：10～20m程度（片側）		
3 事業の概況 ※[ ]内は前回評価時		事業開始 平成16年 事業完了予定 令和10年[令和10年] 全体事業費 942億円[942]億円 既投資額 832億円[738]億円 変更点 なし	進捗率 (事業費ベース) 88%[78%] 工事進捗率 (面積ベース) 5%[0%] 用地取得率 (面積ベース) 82%[71%]	
4 前回再評価からの実施状況		<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度の事業再評価における対応方針は「事業継続（B）」であり、現在その方針に沿って残る用地取得と道路整備を進めている。</li> </ul>		
所管局の考え方				
5 視点 毎の 評価 (変更等の有無)	事業の必要性 A～C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本路線は「JR阪和線の各駅へアクセス機能、交通結節点機能」「沿道公園との連携によるアメニティ空間機能」「防災空間機能」といった多様な役割を担う道路であり、さらに東住吉区の特徴を活かしたまちづくりの方向性等を示した「東住吉区まちづくりビジョン」において、本路線は区の資源である長居公園を中心とした公園体系の形成を担う事業の一つとして位置付けられており、必要性が高まっている。</li> <li>また、地域協働の取組みによる本事業への関心の高さやJR阪和線の連続立体交差事業の完了により広大な空間が広がっている状況から、沿線地域より早期事業推進への期待も高い。</li> </ul>		
	事業の実現見通し B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本路線は、阿倍野区、東住吉区、住吉区と3行政区にまたがる延長約5.5kmであるため、利用者が多く、用地取得率が高い駅周辺部から順次整備を実施する。また、並行して用地取得を進めることにより、事業の進捗が見込める。</li> </ul>		
	事業の優先度 B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度に策定した「都市計画道路の整備プログラム」において、段階的に整備を進める路線に位置付けており、予算の範囲内で、用地取得率の高い駅周辺部から順次整備を実施する。</li> </ul>		
6 対応方針（案）		<b>事業継続（B）</b>		
(理由)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・本路線は、「周辺地域からJR各駅へのアクセス機能、交通結節点機能」「沿道公園との連携によるアメニティ空間機能」「防災空間機能」といった多様な機能をもつ路線である。また、整備前の段階から地域協働に取り組む等、先進的な手法を用いて事業を進めており、本事業への関心の高さやJR阪和線の連続立体交差事業の完了により広大な空間が広がっている状況から、沿線地域より早期事業推進への期待も高い。ただし、本路線は、阿倍野区、東住吉区、住吉区と3行政区にまたがる延長約5.5kmであるため、全体的に整備を進めるのではなく、用地取得率の高い駅周辺部から先行的に行い、その後、駅間の整備を進めるといった段階的な整備を予算の範囲内で実施していくことから「事業継続（B）」とする。</li> </ul>		
7 今後の取組方針（案）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR阪和線の高架化工事事業の完了後、既に広大な空間が広がっている状況から本事業への地域の関心は高まっており、依然として事業の必要性も高いことから、引き続き地域等と調整を図りながら、予算の範囲内で着実な事業実施に努め、令和10年度での完成をめざす。</li> </ul>		